

ごみ問題

一年土木工学科

山崎優太

宮澤瑛亮

テーマ設定理由

日本は今とてもポイ捨てやゴミの量が多いと思ったのでゴミについて調べてこれからの日本をより良くする為にできることを、知りたいと思ったからこのテーマにしました。

現状

- 日本全体で1年間に家庭から排出されるゴミの量は、4272万トン。
東京ドームに換算すると、約115杯分になります。

世界の廃棄物発生量の推定値は

2000年 76憶トン

2020年 146憶トン(86%増)

2050年 170憶トン(146%増)

増えると予想されています。

問題点

- 最終処分場にゴミを運び込む前に、焼却工場でゴミを燃やし体積を大きく減らしています。

これは、日本は国土が狭く、最終処分場を多く確保することができないからです。今ある最終処分場は、約20年で満杯になると言われています。そのため、燃やすことでゴミの体積を減らし、少しでも最終処分場が長く使えるようにしています。

ごみを放置していると有害物質が発生したり、火事になったりすることもあります。また、有害物質が川や地下水などに混じると公害問題に繋がる場合もあります。

今後の課題

- 資源循環型社会の構築に向け、ごみの排出を抑制し、適正な循環的利用を促進するためには、市民・事業者・市が適切な役割分担により、それぞれが積極的な取り組みを図ることが必要です。
- 取り組みについては、最初にごみの発生抑制（リデュース）、次に不用品の再使用（リユース）、最後に回収されたものを原材料として適正に利用する再生利用（リサイクル）や熱回収としての利用を行い、それでもやむを得ず循環的利用が行われないものについては適正な処分を行うという3Rの考え方とその優先順位を念頭におくことが重要です。
- そのため、市からごみ処理の実態を正しく伝えながら、市民・事業者・市が、どのようにすれば発生抑制・再使用・再生利用につながるかといった情報を共有するとともに、それぞれの果たす役割を自覚し、行動することが求められています。

10代からの提言

先程の日本のゴミの現状や問題点からゴミの発生を防ぐための袋の有料化なんかより法律を立てて禁止にしたりプラスチックのものをよりエコをして紙ストローを使ったりすればゴミの発生をより防げると思います。

考察・感想

今回ゴミ問題についてこれからの日本に大切なことが分かった。これからの日本はゴミの最終処分場をより長く利用できるように様々な対策を考えて協力しなければいけないと思った。